

表参道・原宿エリアで再開発ビルの建設が相次ぐ。東急不動産などが新たな商業ビルを開発し、婚礼施設も続々と誕生する。高級ブランドから手ごろな価格の店まで集まる街として外国人観光客の注目も集め、東京都は2020年の東京五輪までに明治通りを拡幅する計画だ。より快適に町歩きが楽しめることで、流行の発信地は一段とにぎわいが出そうだ。

# 表参道・原宿 感度アップ

## 商業・婚礼施設続々



表参道・原宿で商業ビルや婚礼施設が相次ぐ

のテナントが入る。セレクトショップのアーバンリサーチ(大阪市)が新ブランドの旗艦店を出店する。緑のあるテラスを設け、ファッション感度は高い若者だけでなく、高

ユアルな店まで混在しているほか、交通アクセスも良くなり幅広い客層が取り込める」(商業施設開発部)という。三越伊勢丹ホールディングス(HD)も同時期竹下通りに「原宿アルタ」を開業する。周辺はポツプカルチャーなど「カワイイ文化」の発信地で、最近では外国人観光客も多く集まる。延べ床面積は約1450平方メートル、10代女性の客を主なターゲットに、雑貨店や衣

## 明治通りは拡幅640

ヤペルを設ける。明治神宮に近い立地を生かし、周囲に竹林を整備し和のイメージを演出する。元はフィットネス施設などが入っていたオフィスビルで、投資額は約30億円。1組あたりの平均単価は400万円、年間350組の利用を見込んでいる。同く9月には表参道ヒルズの近くにアリア(東京・渋谷)が「ザ・グロー表参道」を設ける。専属パティシエの作る独自のウエディングケーキが目玉で、披露宴のない時はレストランとして営業する。アルカñシエル(名古屋)も15年3月、表参道駅近くの住宅地に同社として都内初の結婚式場を設ける。現在、都は民間事業者らと用地買収に向けた交渉を進めている。